

## アーキビストの眼

Viewpoint of Archivists

国際シンポジウム参加記  
改組とアーカイブズ/アーキビストのスキル

平和祈念展示資料館 毛塚万里

Mari KEZUKA

公益財団法人渋沢栄一記念財団（以下、渋沢財団）と国際アーカイブズ評議会（ICA）企業労働アーカイブズ部会（section for business and labour archives, SBL）、企業史料協議会（BAA）の共催による国際シンポジウム「ビジネス・アーカイブズの価値：企業史料活用の新たな潮流」（The Value of Business Archives: Their Use by Japanese Companies and New Global Trends）が、2011年5月11日9時30分から17時30分まで、東京都港区の国際文化会館にて開催された。

渋沢財団は、2008年からICAに加入し、専門部会の一つであるSBLに所属。毎年1～2回、各国で開催されるSBLの会合にも参加、部会運営に積極的にかかわって来た。2011年、運営委員会会議を東京に招致したことにあわせ、本シンポジウムが計画された。

シンポジウムのねらいは、ビジネス・アーカイブズの利用に関する新しい動向の紹介とともに、ビジネス・アーカイブズの持つ多様な価値を、さまざまな事例を通して検証し議論する機会とすることにあった。

折しも3月11日に発生した東日本大震災の影響のため、当初の予定が大きく変更され、最終プログラムは代読を含め報告9本。そのうち8本はICA/SBL会員から、1本はBAA会員によるもので、第5セッション：パネルディスカッションの司会を、松崎裕子氏（渋沢財団、ICA/SBL）が務めた。

当日は待望のシンポジウムに期待を抱く110名を越す参加者で会場には熱気が充満す

表1 プログラム

開会の言葉 小出いずみ(渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長)
主催者挨拶 小松諄悦(渋沢栄一記念財団常務理事) 歌田勝弘(BAA会長) ディディエ・ボンデュ(ICA/SBL部会長)
Session 1 - 歴史マーケティングの力1 (1)より広い見方:今日のコミュニケーションを歴史的事実で支える ヘニング・モーゲン(AP.モラー・マースク社、デンマーク) (2)会社の記憶:経営のツール、サンゴバン社の例 ディディエ・ボンデュ(サンゴバン社、フランス)
Session 2 - 歴史マーケティングの力2 (3)日本の伝統産業とアーカイブズ:虎屋を中心に 青木直己(虎屋文庫、日本) (4)アンサルド財団:アーカイブズ、トレーニング、そして文化 クラウディア・オーランド(アンサルド財団、イタリア) (代読:松崎裕子)
Session 3 - 企業史料とナショナル・ストラテジー (5)資産概念の導入と中国における企業記録管理へのその効果 王嵐(中華人民共和国国家档案局、中国) (6)ビジネス・アーカイブズのためのナショナル・ストラテジー: イングランドとウェールズ アレックス・リッチー(英国国立公文書館、英国)
Session 4 - アーカイブズを武器に変化に立ち向かう (7)誇り:買収・統合後における歴史物語の重要性 ベッキー・ハグラント・タウジー(クラフト・フーズ社、米国) (8)企業という設定のなかで歴史を形作る:ゴドレージ社のシナリオ ヴルンダ・パターレ(ゴドレージ社、インド) (9)合併の波の後で :変化への対応とインテサ・サンパウログループ・アーカイブズの設立 フランチェスカ・ピノ(インテサ・サンパウロ銀行、イタリア) (代読:ベッキー・ハグラント・タウジー)
Session 5 - パネルディスカッション モデレーター:松崎裕子(渋沢栄一記念財団、ICA/SBL)

る中で、世界各国のSBL運営委員による事例発表と議論が活発に行われた。

当日プログラムは表1のとおりである。最終セッションでは報告者全員を壇上に迎え、会場の聴衆からあらかじめ提出された下記の論点を中心に、パネルディスカッション方式で議論が行われた。

- ・企業の歴史情報へのアクセス問題
- ・企業の負の遺産は活用しうるか

- ・企業博物館との連携
- ・パブリック・セクターとの連携
- ・組織の中でいかにアーカイブズの価値を周囲に認識させるか、ほか

#### ■展示

会場入口で、日本の老舗企業に関するパネル展示がBAAの協力で開催されていた。この展示は、日本のビジネス・アーカイブズを学びたい、という海外のSBL委員からの強い要望で実現したという。タブレット型コンピュータ併用の見せ方、日英バイリンガルによる内容は、非常に興味深いものだった。

#### ■紙1枚の社史ニーズ

印象に残った報告のひとつとして、ベッキー・ハグランド・タウジー氏の報告を取り上げる。

「社史をペーパー1枚で示せないか。そういう資料が欲しい」

こんな要望が、社内各部署や社員からたくさんあった。そのニーズに即応するために、クラフトフーズ社のアーキビストは、外部デザイナーと協力し、社史を紙1枚で表現したロードマップを約4か月で完成させたという(図1)。

米国クラフト・フーズ社が英国キャドバリー社を統合した際、アーキビストに与えられた使命は、両者の社員を同じ土壌に立たせ、4か国に存在する支社間でコミュニケーションが成立するようにするための基盤整備であった。すなわち、合併の確定直後から、アーキビストはただちに相手の歴史を徹底的に調査し、歴史情報を洗い出し、自社の社史、ブランドにとりこむ準備を進めた。

具体的には、まず臨時のイントラネットを立ち上げ、両社アーカイブズ部門の支援とともに、両社既存のWeb資源を活用し、お互いに学びあえるしくみを整備した。まず、創立者に対する誇りをもつ両社の共通点を知り、両社の歴史が似ていることを理解していった。さらに各ブランドの情報と商品の歴

史、ロゴなどをイントラネットにのせるために、クラフト・フーズ社の来歴情報をまとめた旧版のロードマップに、英国キャドバリー社を入れた改訂版を作成した。これが社史を1枚で表現したペーパーである。このほかプレゼン用のビデオクリップ、トリビアゲームの掲載なども順次実施していき、おおむね社内には好評だったという。このような取り組みがスムーズに行われ浸透した結果、両社の社員がもつ合併への不安や懐疑心を解消していくことに役だったという。異なるバックグラウンドをもつ社員が、個々の力を発揮しやすい環境整備づくりにアーキビストが大きく貢献したことがわかる。

このアーカイブズプログラムの報告は、組織の経営課題に対し、文書記録と記録資料をどう役立てるか、専門職としてのアーキビストに求められるスキル・役割を考える上でとても印象に残った報告である。

合併時にコスト削減の対象とならないように働きかけも行ったという発言も聞かれたが、これはアーカイブズ部門の日常的な実績なくして、聞き届けられるわけがないといえよう。

#### ■映像配信と公開

ICA-SBLに運営委員会に委員を送り出している渋沢財団の実業史研究情報センターは、国外への情報発信とともに、国内向けには、メールマガジン「ビジネス・アーカイブズ通信」を発行し、海外の情報を日本語で提供している。その担当スタッフたちの行動力と活動力に対し、同じ全史料協のメンバーとして、筆者は日ごろから敬意を払うひとりなのだが、このパワフルさは、2008年のICA大会で目撃したSBLセッションの報告者たちの印象と相通ずると改めて感じている。当日配布された充実したプログラム冊子(図2)はもちろん、ブログの利用を通して、「メイキング・オブ・国際シンポジウム」の様子を多くの人が共有できた。

さらに来場できない方々にもシンポジウ

図1 GROWING TOGETHER ロードマップ

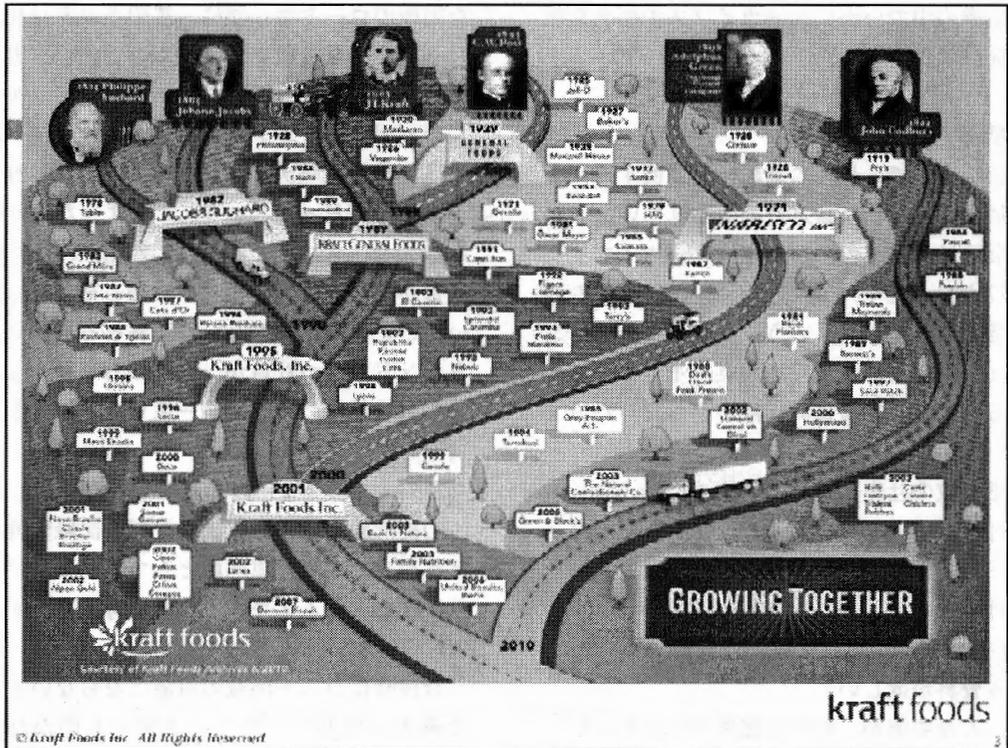


図2 プログラム冊子

国際シンポジウム  
International Symposium

ビジネス・アーカイブズの価値  
-企業史料活用新たな潮流-

The Value of Business Archives  
Their Use by Japanese Companies  
and New Global Trends

2013年5月15日(水) 9:30-17:30  
国際大会会場 3-30-17-30  
Wednesday, May 15, 2013 9:30-17:30  
International House of Japan, Inc.

Organized by  
SBL&ICA  
Society of Business Literature & Archives  
国際企業史料研究会  
企業史料協会の会

Becky Haglund Tousey  
ベッキー・ハグランド・タウジー

Kraft Foods (USA)  
クラフト・フーズ社 (米国)

Becky Haglund Tousey is Senior Manager of Global Archives at Kraft Foods. After coming to Kraft Foods in 2010 she worked as a new government archivist, a university archivist and a heritage project manager. At Kraft Foods she oversees a complex and vibrant program that includes all of the company's global operations and employees.

Becky is a member of the Society of American Archivists and other archival associations in the U.S. She is an active member of the ICA, and has participated in ICA's U.S. and international archival conferences, including a Leadership conference called "Access to Archives: Inquiries and American Practices" held in Tokyo in May of 2012.

ベッキー・ハグランド・タウジーは、クラフト・フーズ社のグローバル・アーカイブズ部門のシニアマネージャーである。2010年にクラフト・フーズ社に入社してからは、新しい政府機関のアーカイブ、大学アーカイブ、そして遺産プロジェクトのマネージャーとして、多岐にわたる業務に携わってきた。クラフト・フーズ社では、グローバルに展開する多岐にわたる業務と従業員を管理する複雑で活気あるプログラムを統括している。彼女は、アメリカン・アーカイブ・ソサエティ（SAA）や他のアーカイブ協会に所属している。彼女は、アメリカン・アーカイブ・ソサエティ（SAA）の国際会議や、2012年に東京で開催された「アクセス・アーカイブズ：問い合わせとアメリカン・プラクティス」の国際会議に参加している。

クラフト・フーズ社は、1903年に設立された食品製造会社であり、世界的に知られる多くのブランドを擁している。クラフト・フーズ社は、消費者の健康と安全を最優先とし、品質の高い食品を提供している。また、環境に優しい生産方法を採用し、持続可能な社会の実現に貢献している。

ム参加の機会を提供できるようにとの趣旨で、アカデミック・リソース・ガイド株式会社の技術的支援を得て、動画配信サービス「Ustream」を通じて生中継が行われた。また終了後も一定期間、合意を得た発表者の報告が視聴ができるように配慮されるなど、積極的に新しい取り組みを実行していた点も触れておきたい。

以上の新しい試みのほか、出版プロジェクトも開始されており、今回シンポジウムで発表された報告に加え、これまでICA/SBLその他のビジネス・アーカイブズに関わる専門的な会議や機関誌で発表されてきた、ビジネス・アーカイブズのベストプラクティスに関する発表や報告を日本語に翻訳して収録した『世界のビジネス・アーカイブズ』を2012年に出版する予定だという。<sup>\*注)</sup>

2008年のICA大会(クアラルンプール)で筆者が参加する機会を得たICA/SBLのセッションは、多彩で鮮やかな工夫満載のプレゼンをこなす各国企業アーキビストたちの眩しい姿だった。残念ながら、本シンポジウムでは報告者が多く、同時通訳という時間的制約もあり、それぞれの魅力的な体験をホットに語る時間はとれず、各機関や組織の経験のエキスを紹介するにとどまった。機会をつくれる方は、ぜひICA大会に足を運び、各国SBLを牽引するアーキビストたちの本領を、肌で感じ、刺激を共有して欲しいと願う。その時のある報告で、これからの企業アーキビストは、広報とデザインとWebのスキルを高めていくことが大事だ、という指摘があったことも印象深く憶えている。新しい技術やサービスに対し、意欲的に手を染めチャレンジしていく積極性の維持。企業のみならず今日の社会で活躍し続けるアーキビストのスキルを考えていく上で欠かせない要素であろう。

#### 【参考情報】

- ・ブログ <http://d.hatenane.jp/tobira/20110608/1307498712>
- ・実施報告 [http://www.shibusawa.or.jp/center/network/01\\_icasbl/Tokyo/index.html](http://www.shibusawa.or.jp/center/network/01_icasbl/Tokyo/index.html)
- ・「ビジネス・アーカイブズ通信」No.35 (2011.6.10 渋沢財団実業史研究情報センター) <http://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20110610.html>
- ・「ビジネス・アーカイブズの国際シンポジウム」 「アーカイブコラム」2011.6.13 <http://www.archive-support.com/column/097.html>
- ・後援行事の報告(松崎裕子)『記録管理学会 News Letter』No.55 2011.7

#### \*注

『世界のビジネス・アーカイブズ：企業価値の源泉』（渋沢栄一記念財団実業史研究センター編、日外アソシエーツ）として2012年3月に刊行された。また全体の詳細な概要は森本祥子「国際シンポジウム『ビジネス・アーカイブズの価値—企業・史料活用の新たな潮流』参加記」、『アーカイブズ学研究』No.15 2011.11 を参照。